



# ふくしまの淡水魚



「ふくしまの川と沿岸」の展示エリアには湧水を再現した水槽があります。この水槽で展示されている「ホトケドジョウ」について紹介します。ホトケドジョウという名前は、お地蔵様が魚に化けたという言い伝えから名付けられたようで、名前からも分かる通りドジョウの仲間です。全長は6cm程で体型はずんぐりとしています。口にはヒゲが四対（八本）あり、ドジョウの五対（一〇本）と違いますが、このヒゲを使って砂の中のイトミミズや水草の間に潜む小さな生き物を感じ取って食べます。

**水** 族館では主に、ユスリカの幼虫（アカムシ）を与えています。ホトケドジョウはよく泳ぎ回り、餌を与えている手に乗ってくるほどです。他のドジョウの仲間たちが水底でぼそぼそとエサを食べると比べると、あまりドジョウらしくないと言えるかもしれません。

産卵は、四月下旬から六月の夏本番前に行われます。水草や藻類などの間で一匹の雌に数匹の雄が追いかけるようにして行われます。卵は、水草などにくっついて孵化を待ちます。孵化した稚魚は3mm程で、すぐに泳ぎだして散らばり、水草等の陰に隠れて、捕食者（例えば他の魚、ヤゴやコオイムシといった水生昆虫から身を守ります。翌年には産卵に参加



▲ホトケドジョウの生息地

habitat of the Lefua roach

**私** たちの福島県内の調査結果では、ホトケドジョウは湧水と関連した田んぼの水路や山間の細い水路などごく限られた環境に生息していることがわかりました。ここで、湧水とはどんなところかを簡単に説明しましょう。山に降った雨は、地面にしみこみます。そして植物と大地が必要な分だけ吸い取り、残りは地下水となります。その地下水が再び地上に出てきた所が湧水となるのです。水は、土によって濾過され、暑さや寒さなどの外気温に左右されずにほぼ一定

できるようになります。

Fresh Water  
Fish in  
Fukushima

by Makoto kuraishi